

新執行部先頭に「60・3」に総決起する 11/13 銚子支部大会



☆☆☆☆

十一月十三日、銚子支部は第五回定期大会を開催し、二十六名中二十五名が参加して、「三本柱」粉碎と、当面する「六〇・三ダイ改」阻止に向けた闘う方針を確立するとともに、全組合員が総団結・総決起することを決定し成功裡に終了しました。

支部通信員 発

攻撃には闘いをもつて反撃するぞ

大会は、議長に伊藤君（支部乗務員分科会長）を選出して開かれ、冒頭あいさつにたった宮崎支部長は、「すぐる一年間、休む間もない闘いの連続を、全組合員の協力で闘いぬいてきた。この組織力をもって今後も更にがんばっていききたい。当面「六〇・三」にむけ、全員一致協力して闘いぬこう。来栖発言については、公開質問状をつきつけて徹底的に弾劾してきたが、これにみられるように、動労「本部」は「職場を守る」どころか当局と一体となって、職場に混乱をもちこんだり、不利益になることばかりやっている。われわれは、これらの攻撃に対しては、「闘いなくして勝利はない」との確信を堅持して闘っている。本大会で全員で討議し、闘う体制を更に強化していこう」と訴えました。

地区労、労金、労済からのあいさつをうけたのち、本部を代表して水野副委員長より、「反動・中曽根は、暴力的に労働者を屈服させ、経済の破綻をのりきるために、全ての犠牲を労働者に転嫁して延命をはかろうとしている。この攻撃の中でとりわけ動労「本部」革マルは、ますます反動化し、「職場と仕事と生活を守る」と称して政府・国鉄当局の先兵となって闘う労働者に襲いかかってきている。このような動労「本部」革マルをどんなことがあっても追放・一掃しなければならぬ。そのためにこれから「六〇・三」をめぐる闘いに突入するが、日常的な職場の闘いをつくりだし、これを基軸に創意あふれる闘いをもつて全体で阻止しよう」とのあいさつをうけました。

熱気あふれる討論

その後ひきつづいて、秋葉副支部長の経過報告、早船書記長による運動方針（案）、永井執行委員による一九八四年度予算（案）がそれぞれ提起さ

84. 11. 19

No. 1696

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

れました。つづいて、熱気あふれる一括質疑に入り、要旨次のような質問が出ました。
「六〇・三ダイ改」で予測される東京乗入れ、それに関連する諸問題について。

「六〇・三」で予測される検査の合理化について。
「三本柱」攻撃は管内ではどうなっているのか。
「運転関係職員の一部職制改正にともなう一部職名移行」管理主任制度の導入についてはどうなっているのか。

「六〇・三ダイ改」に対する具体的闘いについて。
等々が出され、これに対して執行部側から「いずれの問題も、「六〇・三」がらみのことであり、「六〇・三」については、乗務員分科、検・修分科とも連携をとり、節々に闘いを配置して、当局がこれを突破口としている以上、阻止に向け全力をあげて闘っていく」との答弁をうけて、全員で意志統一を行い、一年間を闘いぬく方針を決定し、最後に宮崎支部長の音頭で団結ガンバローを力強く行い終了した。

尚大会終了後第一回執行委員会を開催し、すでに大会で選挙管理委員長から報告確認された当選者の中から次のように新執行部が確立されました。

新執行部

執行委員長	西本 泰道	三五才
執行副委員長	多田 正雄	三六才
書記長	早船 静四郎	三八才
執行委員	上野 孝治	三六才
執行委員	永井 誠	四〇才
執行委員	林 信一	三七才
執行委員	秋葉 利雄	四六才
執行委員	宮崎 禎夫	三八才
特別執行委員	伊藤 隆	三八才

当面するスケジュール

（十一月）

- 十九日 「県春闘」結成総会（代表派遣）
- 二〇日 用水粉碎・三里塚緊急現地闘争（代表）
- 二六日 第四回事務分科定期委員会
- 二九日 「60・3ダイ改」阻止・青年部総決起集会（十二月）

- 一日 青年部長会議
- 二日 用水粉碎・自主耕作地防衛、二期着工阻止
- 五日 「組合費」公判闘争
- 八日 第十回定期委員会
- 十日 第二回「6・12」控訴審公判闘争